

政策・メディア 21 プロジェクト紹介

テーマ

社会と生活が依存できるデジタルコミュニケーション環境の信頼性確立

インターネットに代表されるデジタル技術は 21 世紀の生活や社会構造を基本的に変容させる可能性を秘めている。新たな技術がもたらすブレークスルーによって豊かな生活や経済の活性化を実現するためには、このような技術の持つ特性や問題点などを考慮した上で新たな政策実現の枠組みが必要と思われる。

これまでの社会的枠組みをあいまいなものにする情報社会の到来は、従来の縦割り監督官庁制度の限界を超え、新たな産官学協調の枠組みを必要としている。

本研究プロジェクトは、計算機科学、政治学、経済学、法学など多彩な研究領域をバックグラウンドとして持つ研究者によるものであり、慶應義塾大学 政策・メディア研究科 森泰吉郎記念研究振興基金重点指定研究に位置付けられている。

本研究の課題は、日本国におけるデジタル社会化に向けた政治・社会・経済システムに対する提言、とくに次世代産業基盤としての情報インフラ構築に向けた政策のありかたおよび、情報社会の脆弱性を克服するための基盤防護の方策について技術と政策の両面から検討し、政策提言を含めた解決法を提示することである。

主要テーマとして以下の項目を掲げている。

1. 国家インフラとしての広帯域海外通信線戦略
2. 新産業基盤としての暗号技術政策
3. 社会機能を維持するための情報インフラの防護・信頼性の確保
4. 社会基盤としての国内情報インフラの設置
5. その他、情報政策に関わる法制や汎用の電子認証機構など情報技術に関わる政策課題全般

<http://www.mag.keio.ac.jp/mag21/>